

## 何でも読もう会

書物名	『破船』	開催日	出席者
作者	吉村 昭	2024.10.21	4名
<p>・作家 吉村昭は作品執筆の背景を次のように記している。</p> <p>「江戸初期の古記録に荒天の暗夜の海で難儀する船を、海岸に住む者たちが巧みに磯に誘って破船させ、積み荷などを奪うことが秘かに行われていた」と記されていた。</p> <p>「また、恐るべき疾病であった天然痘に罹った者を船に乗せて海に流した」という記録を眼にして、その両者を結びつけることで小説の構想は成った。</p> <p>&lt;主な意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・難破船を「お船さま」と待ちわびる人々の悲哀を感じながらも、それだけ厳しい生活環境を見逃せない。</li><li>・貧困と孤立が生み出す人間の悲劇を見事にえがいている。</li><li>・作者は徹底した取材と豊富な資料を基に、リアリティのある物語描き出しているのに感心した。</li><li>・貧しさ、飢え、厳しい出稼ぎ、死が描かれているが、ラストで父が戻ってくるというのが救いになった。</li></ul>			